子どもたちは今

～体験学習から見えてくる子どもたちの姿～

野外炊事で皿洗いをする子どもたち・チャレンジキャンプ2010より

2つの研修会から見る

9月15日（水）～9月19日（日）、鶴田町公民館で、4泊5日の第7回通学合宿「鶴田にぎりまんま塾」が開催されました。今年は管内の小学校から5、6年の小学生19人（男子5人、女子14人）の参加者が集まり、大学生13人を含め、延べ37人のスタッフでの通学合宿となりました。児童たちは日常生活とは違う団体での共同生活の中で、親のありがたさ、協調性の大切さ、食事の大切さなど、たくさんのことを知る研修会になりました。

また、10月9日（土）～10日（日）の1泊2日で、長平青少年旅行村（鰺ヶ沢町長平）を主会場に、「チャレンジキャンプ2010・鶴田町ジュニアリーダー研修会」が開催されました。今年の研修会には、小学4～6年生17人、中学生9人の参加者と、高校生を含む指導スタッフ22人の計48人の参加者で行われ、小学生はジュニアリーダーを目指し、中学生はジュニアリーダーとして、高校生は子どもたちを束ねる指導員としてそれぞれ違った目的で参加し、異世代間の交流を通して「人を思いやり、仲間を大切にする」ことを知る有意義な研修会になりました。

今回行われた2つの研修会から見えてくる、町の子どもたちの姿を皆さんにお伝えします。

チャレンジキャンプ2010
野外炊事

・右／薪をくべ、火を起こし、鍋を温めるのは男子がやることが多い

・左／野外での食事はとにかくおいしい。自分たちが作ったものならなおさらだ（メニューは定番のカレーライス）

にぎりまんま塾から

・写真右／一度教わった洗濯機の使い方だが、いざ使うとなると分からなくなり考え込んでしまった

・写真左／合宿初日、寝室に布団を敷いてみるが、どうもきれいに敷けない子どもたち

普通のことが難しい

にぎりまんま塾

初めて参加した子に「この合宿は料理や洗濯、掃除をみんなやるんだよ、知ってる？」と聞くと「知ってる、やってみたかったから来たんだ。」と思いがけない返事がきました。この研修会も回数を重ね、内容については、前に参加した子どもたちからいろいろ聞いているようでした。

最初から分かっていても、いつもやっていないことをやるのは子どもたちにとって大変なことです。合宿生活の中でごく当たり前のこと

・布団を敷く、たたむ

・清掃や整理整頓

・洗濯物を洗って干す

・包丁を使って料理

などは、一人でできるようになるまで時間がかかります。

当然ながら、家庭ではこれらを行う事はあまり重要でないことで、「きちんと勉強をやればいい」「大人になれば自然に分かる」と感じていらっしゃる保護者の方も多いかと思います。

しかし、子どもたちは「やってみたいから」という気持ちで参加している子が大半なのです。連日、指導員から教わり取り組む姿は、全員生き生きしていて、たくましささえ感じました。

ぜひ、子どもたちに、いつもしてあげていることを、できる範囲でやらせてみてください。子どもの意外な一面を見ることができると思います。

～合宿生活での感想～

料理はみんなの分を大量に作らなければいけないので、班のみんながやる気を出して協力しないとできない。協力はとっても大事だと思いました。

三浦里夫（鶴田小・6年）

2日目の朝、わたしの班が食事を作りました。はじめは、どうやってやるんだろうと思ったけど、いろいろ教えてくれたので食事をちゃんと作れました。

八木橋葉月（鶴田小・5年）

3日目の朝のベーコンはぼくが焼きました。そのあと友達とコーンスープも作って楽しかったです。

鹿内　哉（水元中央小・5年）

料理なんてほとんどやったことがないので、みんなうまくてびっくりしました。

齋藤一誠（鶴田小・6年）

自分で初めて朝ごはんを作りました。おいしかったです。

鹿内彩香（水元中央小・6年）

5時45分に起き、班で手分けしてごはんやそうじ、洗たくをして、2日目には入浴がありました。浴そうのそうじは、とっても大変でした。

笹森飛鳥（鶴田小・6年）

料理はすべて指導員が一から教えてくれる。大人をすごいと思う瞬間だ（にぎりまんま塾より）

ブナの木の幹に聴診器をあて水の流れを聴く

散策したミニ白神のブナ林

白神の自然の中で

チャレンジキャンプ

チャレンジキャンプのほとんどが野外活動で、子どもたちの生活の中では危ないとされる、「山に行く」「刃物を持つ」「火をおこす」を、あえて研修に取り入れて行われています。にぎりまんま塾で行われていた生活力を身につけるための野外編です。

今回、活動のメインとして、白神山地の入り口である「ミニ白神」の散策が行われました。

散策といっても奥深い山中です。安全に活動するため、バディ（2人組の同士）を組み、きちんとした装備と服装で臨みました。

ブナの原生林の中を歩き、木の幹に聴診器を当て水の流れる音を聴き、クマの爪痕のある木を見たり、見たことのない植物やキノコを観察したりと発見の連続でした。散策途中、急に大雨が降ってきましたが、子どもたちは用意していた雨カッパをすぐに着込み、慌てることなく散策を続けることができました。

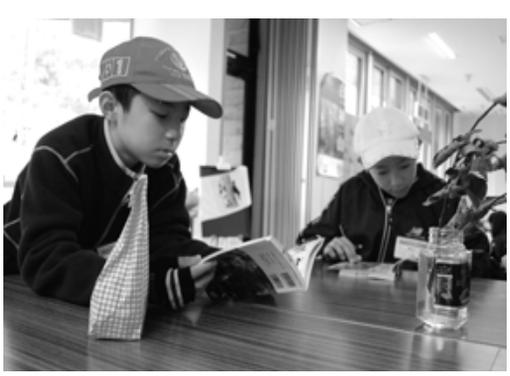
自然体験では、経験のある大人たちが正しい知識を教えることによって子どもたちは成長していきます。今回、大自然の中に入り散策した経験は、町の中だけを見て育ってきた子どもたちにとって、新鮮な体験であり、さまざまなものを見る目が広くなったように思えます。

～ミニ白神での感想～

白神散策で遊歩道を歩いている時、800m地点で聴診器と書いてある箱を見つけました。中には聴診器が入っていて、木に当てて音を聴いてみましょうという立て札が書いてあったので、聴診器を木に当てると、「サァー」と水が流れる音がしました。そこから100m近くの所に熊の爪痕がありました。友だちと一緒に「すげー！」と言いました。中間の東屋に着くと雨が強くなり、リュックに入れていたカッパを着て、持っていたお菓子を食べて休憩しました。帰りの道は、木でできた橋のような遊歩道を歩き、2・2kmの散策が終わりました。

くろもり館に着くと、豚汁が用意していて、友だち4人で食べました。おいしかったです。

竹浪　泰生（鶴田小・6年）



チャレンジキャンプ2010
ミニ白神散策から

・写真上、左／整備された散策道とはいえ大自然、山に入る際は必ず2人一組で隊列を組んで行動する

・右／散策後、目の当たりにした白神の植物について調べる子どもたち

チャレンジキャンプ2010 レクリエーション

・右／班長から班員へ神聖な火が移されていくキャンドルサービスは、厳かな雰囲気に包まれる

・写真左／さまざまな願いが込められた火が燭台に献火されていく

楽しいゲーム&ダンス

両研修会ともに共通して、子どもたちが一番元気な姿を見せたのが「ゲーム」と「ダンス」でした。

ゲームといってもゲーム機のゲームではありません。昔の「鬼ごっこ」や「花いちもんめ」のような遊びを現代風にアレンジして、頭と体を使って、人と人がふれあうゲームです。

にぎりまんま塾では、後半の2日間、ジュニアリーダーたちが塾生を指導してさまざまなゲームとレクダンスが行われました。チャレンジキャンプでは、夜のキャンドルサービスのために、午後の時間をすべてゲームやダンスなどの研修が行われました。

実際にお見せできないのが残念ですが、手をつなぎ、心から笑い、汗をかきながらゲームやレクダンスをしている光景は、子ども本来の姿そのものです。

一方、なかなかこのゲームに馴染めない子もいます。特に学校や学年が違うとそういった傾向が多く見られ、今回の研修会でも、何人かの子どもは最初参加せず周りで見ていました。指導するジュニアリーダーたちはその子どもの気持ちをよく知っていました。実はジュニアリーダーたちもそうだったからです。

そんな様子をうかがっていると、あるリーダーが手をつなぎ、「少しやってみようか」と優しく声を掛けていました。無理に引っ張ろうとせず「自分も一緒だから恥ずかしくないんだよ」と言い、決して無理をさせることなく、ただ優しくそばにいるだけでした。

一緒にできるかできないかは、心が開くまで早いか遅いか、それだけの小さな違いです。心を開き恐さや恥ずかしさが薄れると、今までのことが嘘だったかのようにゲームを一緒に楽しめるようになります。

うれしいことに今回の研修会では、すぐ全員でゲームやレクダンスを楽しめるようになりました。

いったんゲームの楽しさを知ってしまえば、機械ゲームにはない人とのふれあいがあります。子どもたちはこういった「遊び」の中から、よい友情を育み、よい人間関係を築いているのだと思います。

～ゲーム研修での感想～

「ジンギスカン」と「マイムマイム」を疲れるまでたくさん踊りました。とても楽しかったです。

佐藤翔哉（胡桃館小6年）

最初はすごく緊張したけど、友達が声をかけてくれて、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

三上　月（水元中央小4年）

一番楽しかったのが、みんなでゲームをやったことと、ダンスを思いっきり踊れたことでした。

三浦里央（鶴田小6年）

満面の笑顔でゲームを楽しむ子どもたち
（チャレンジキャンプより）

長平青少年旅行村にて

「ものづくり」から見えること

研修会ではさまざまな体験学習も行われました。にぎりまんま塾では、長細い風船を使って動物などを作る「バルーンアートに挑戦」や手動の発電機でエコカーを作ったり、本物の電気自動車を試乗したりする「電気を学ぶ」の学習が行われました。また、チャレンジキャンプでは、天然の木材を使ったペンやペン立てと竹で箸を作る「木工クラフト」が行われました。

ここで目を引いたのは、「ものづくり」に、興味を示さない子どもが多いことです。「風船?」「何の木?」といった感じです。最近特にそんな子どもたちが増えているような気がします。やる前から自分の好きな事以外は「面白くないこと」になっているようです。

さて、先生からのお話が終わり、作り始めてから数分くらい、あまり気が入っていない様子でした。ところが10分もすると集中して作り始めます。人間は「働く動物」と言われますが、子どもたちにもその遺伝子は受け継がれているのでしょう、後半に近づくと、夢中になって止めようとしませんでした。

このように、子どもたちには少し我慢させて「ものづくり」や「仕事」の機会を与えるのも子どもたちにとって必要なことだと思います。

～ものづくりの感想～

箸はヤスリで一生懸命こすって上手にできあがりました。でもリーダーのお姉さんより上手にできなかったのが残念です。

下山千尋（鶴田小・6年）

楽しかったのはバルーンアートです。初めに基本のイヌをみんなで作り、つぎに自由なものをつくりました。インコやウサギが作れてとても楽しかったです。

葛西瑠希（鶴田小・5年）

それぞれのチャレンジキャンプから

途中ちょっと失敗したけど、カレールーを入れて、煮込んでからみんなで味見をして、OKのサインが出たときはうれしかったです。

長内彩花（富士見小・5年）

ゲーム研修では、ジュニアリーダーの人たちからたくさんゲームを教えてもらいました。全部楽しかったです。ありがとうございました。

永野未華（鶴田小・5年）

来年は弟も連れて、チャレンジキャンプに行きたいです。来年はどこに行くのか楽しみです。

阿保美優（鶴田小・5年）

・写真右・中／「ものづくり」木工クラフトに夢中になる子どもたち（チャレンジキャンプ）
・写真左／「電気についての学習」で電気自動車に試乗する塾生たち（にぎりまんま塾）

・写真右／チャレンジキャンプ修了式では、全員がきちんとした態度で臨んでいた

・写真左／研修後、感想文を書く表情が楽しそう（チャレンジキャンプ）

研修会を終えて

2つの研修から見えてきた子どもたちの姿は、とても純粋なものでした。

それは、テレビもゲーム機もない環境の中での子どもたちを見たからかもしれません。また、あまり見かけることのない炊事や洗濯をするところを目の当たりにしたからかもしれません。しかし、一番強く言えるのは、楽ではない環境の中でみんなで楽しもうとする生き生きとした姿が見えたということです。

「困ったときはお互い様」という言葉があります。これは火事の多かった江戸時代に、共同長屋に住む町人たちが、火事の時は見知らぬ人でも助け合ったというところから生まれたことばで、人間苦しくなるとだれでも助け合うという意味で、この研修も大変だからこそ、知らない子ども同士が集まっても「お互い様」の心が生まれ最後まで楽しくやれたのだと思います。そして研修を通して楽しいことは決して機械のゲームだけじゃないことも分かったようでした。

大人の皆さん、「今の子どもたちは」の次に出てくる言葉が、もしかして否定形になっていませんか。それは周りの環境が子どもたちをそう見せているだけで、子ども本来の姿は、今も昔もまったく変わりません。

子どもたちがいるからこそ、町も人も元気でいられることをぜひ忘れないでください。

それぞれのにぎりまんま塾から

ジンギスカンと、マイムマイム（レクダンス）を最後のさよならパーティーでできてうれしかったです。わたしは、にぎりまんま塾に本当に来てよかったです。来年も行けたらいきたいし、行けたらもっと仕事をてきぱきやりたいです。私は、小学校を卒業してもまた、ジュニアリーダーとして、にぎりまんま塾に行きたいです。今こんなことを考えると、うきうきしてきます。本当に楽しかったです。

一戸　蕗乃（鶴田小・5年）

にぎりまんま塾に参加してよかったです。友だちもたくさんできました。友達、仲間の協力があったから最後まで頑張れたんだと思います。朝早く起きて、そうじ、朝食作りはとても大変でした。お父さんや、お母さんの大変さが分かりました。

岩本千秋（昌浦川小・5年）

最終日、別れを惜しむ塾生からは大粒の涙がこぼれていた（にぎりまんま塾）

閉校式後、今回の塾生とスタッフ全員で